

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう oun
稲雲

第 1 2 号



令和4年10月27日発行

発行者：校長 小貴 崇明

○新たな歴史を創る「秋華祭」で大きな達成感！

10月22日（土）、稲田学園「秋華祭」を開催しました。今年度のテーマは、「創史想愛～仲間と創る一生の記憶～」で、小中9カ年を一緒に学び、生活する義務教育学校の強い仲間意識と新たな歴史を創っていこうという高い理想のもと、学年発表や有志発表、音楽部の演奏など元気と笑顔が光る学校祭となりました。また、コロナ禍以降はじめて前期課程の子どもたちも秋華祭に参加することが出来ました。1～6年生はルパン三世の音楽を、仮装やダンス、打楽器演奏などで元気に表現していました。発表を終えた子どもたちの達成感が見えました。

観覧できる方を、後期課程生徒の保護者・同居家族の皆さんに限定させていただいたこと、また、体育館入場に制限を設けたため、別室でのリモート画像を視聴していただく場面もあったと思います。ご理解・ご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。





○前期課程「性に関する学習」～発達段階に合わせて～

10月18日(火)、発達段階に合わせて3年生は「あかちゃんたんじょう」、4年生は「大人に近づくわたし」、5年生は「いのちをまもる、いのちをそだてる」、6年生は「命のはじまり」というそれぞれのテーマで、性に関する学習を行いました。

講師の先生には、様々な資料や赤ちゃんの実物大モデル、クイズなどを準備いただき、そして自分のこととしてわかりやすく授業をしていただきました。



○完成したドライトマトを袋詰めしました(5・6年生)



昨年度も実施したランドセル・トマトプロジェクトの一環として、海外にランドセルを送るための資金調達のため、5・6年生が取り組んでいたドライトマト作りが、Jラップさんの協力を得てついに完成しました。

10月13日(木)には、そのドライトマトの袋詰めを実施しました。Jラップさんから2人の講師をお迎えして、商品衛生に細心の注意を払いながら作業を行いました。

★言葉と生きる(12) 「教室に迷路をつくる文化祭」

稲田の子どもたちが創りあげた「秋華祭」が終わりました。ふと、自分が経験してきた文化祭を思い出してみると、恥ずかしい話ですが中学生の時に教室を「おばけ屋敷」にした記憶があります。何が文化なのかわかりませんが、級友とアイデアを出し合って、どうすれば入ってきた人が怖がるだろうとか、誰をお化け役にするとか、文化祭当日よりもアイデアを出し合う準備期間がとてもワクワクして楽しかったことを覚えています。

学校の文化祭では、劇や合唱だけでなくゲーム喫茶や迷路のような「何でもいいから自分たちで作った物や場を楽しんでもらう」という文化が日本にはあるのかもしれないね。そんな子どもたちのワクワクする「文化祭」は、秋の俳句の中の立派な「季語」なのです。